

はあと通信

7月「いじめを見逃さない日」

7月3日は、1年間の中でも最もいじめ未然防止の重要となる日でした。岐阜市内の全小中学校が「いじめについて考える日」の取組を行いました。

本校では、他の小中学校に先駆けて、6月27日（火）に「いじめについて考える日」を行い、講師の方をお迎えしてお話を聞き、その後全校学活（道徳）の授業を行いました。

そして、7月3日（月）は、朝の全校放送で校長先生のお話を聞きました。

◇7月3日（月）、朝の全校放送での校長先生のお話



朝の全校放送で話す

校長先生

「いじめを見逃さない日」の取組をなぜ毎月行っているのか、そして7月3日という日がなぜ1年間の中で最も重要な日となっているのかについて話されました。4年前の7月3日に起きたとても悲しい出来事から、「自分に与えられた一つしかない命をどの子ども大切にしていかなばならないこと」「自分がされて嫌だと思うことは相手も嫌だと思っていること」「学校は失敗してもよいところだが人を傷つけてもよいところではないということ」などを、子どもたちに伝えられました。校長先生のお話を受けて、それぞれの学級で、今一度自分たちの心や行動を見つめる時間を持ちました。

◇6月27日（火）、少年育成支援官の田中聡さんの講話

1年生から3年生までの低学年、4年生から6年生までの高学年に分けて、2回講話をしていただきました。

「自分の言葉や行動はだれかを傷つけていませんか？」と子どもたち一人ひとりの心に問う言葉から講話が始まりました。周りの人から何かをされたり言われたりして心や体に痛みを感じたらそれが“いじめ”になることやどんな行為がいじめに該当するのかを、実際に小中学校で起きた“いじめ”を例に挙げて詳しく話されました。警察官でもある田中聡さんは、実際に起きた“いじめ”の中では犯罪に該当するひどい“いじめ”もあり、警察官に取り調べを受ける子どももいたと話されました。それを聞いた子どもたちは驚きの表情を浮かべていました。また、“いじめ”をする子どもたちの特徴を挙げる中で、今の自分たちの姿を見つめ直す場もつくられました。お話の最後には、どうしたら“いじめ”をふせぐことができるかについて一緒に考える時間を持ちました。

この講話の内容をもとに、学級活動（道徳）の授業を各学級で行いました。授業参観も兼ねていたので、たくさんの保護者の方にも、「いじめについて考える日」の取組を実際に見ていただくことができました。また、講話や授業参観の感想もご協力いただき本当にありがとうございました。

【 こどもサポート総合センター少年育成支援官 田中聡さんによる講話の写真 】



【 全校学活（道徳）の授業の写真 】



〔1年1組〕



〔1年2組〕



〔1年3組〕



〔1年4組〕



〔かがやき1組〕



〔かがやき2組〕



〔かがやき3組〕



〔2年1組〕



〔2年2組〕



〔2年3組〕



〔2年4組〕



〔3年1組〕



〔3年2組〕



〔3年3組〕



〔3年4組〕



〔4年1組〕



〔4年2組〕



〔4年3組〕



〔5年1組〕



〔5年2組〕



〔5年3組〕



〔5年4組〕



〔6年1組〕



〔6年2組〕



〔6年3組〕

【 お家の方から届いた感想の紹介 】

たくさんのお家の方に講話を聞いていただいたり、授業参観に来ていただいたりと、本当にありがとうございました。

その折りにたくさんの方から感想をいただきました。その一部をここに紹介します。

【こどもサポート総合センター少年育成支援官 田中聡さんの講話を聞いて】

“いじめ”について具体的に説明してくださり、子どもにもわかりやすかったのではと思いました。“いじめ”をなくすには、思いやりをもつことが大切なのではと思いました。子どもは親をいつも見ているので、私自身も相手を思いやる行動や声かけをしていきます。

“いじめ”に関しての基本的な考え方を子どもたちにわかりやすく説明してくださったので、子どもたちが一生懸命お話を聞いている様子が印象的でした。親も参加できたので、どのような内容をお話しされたのか、親の方も把握できましたし、子どもと“いじめ”について共通認識をもつことができたのはとてもよかったです。このような機会をつくっていただき、ありがとうございました。

自分の子どもは、“いじめ”の加害者や被害者のどちらにもなってほしくないと願っていますが、子ども故にどちらも簡単になり得るのだと気付かされました。子どもがSOSを出した時、いち早くその異変に気付いてあげたいと思いますが、中学年という年頃もあるのでしょうか、学校での楽しい話はしてくれませんが、本人が嫌だと思ったことはあまり自分から話をしてくれなくなりつつあります。いつでも家に素の自分を出せる場所があるよう、親としても家庭で子どもが安心して過ごせるように努めていきたいと思いました。

とても貴重な講演会に参加できてよかったです。中でも印象に残っているのは、小学生の頃に嘘をついたことを中学生になって、とても後悔しているという話です。私も小中学校の頃、“いじめ”にあっていました。ずいぶん前のことですが、当時は本当に嫌だったなと思い返すことがあります。今は大人になったので、昔話に終わってしまいますが、当時“いじめ”の中心になっていた子は、中学校卒業以降、皆と顔を合わせられないということで、遠く離れた場所に住むようになったようです。もし、いじめ対策が今のようにたくさん行われていたら、お互いに辛い思いをしなくてもすんだのにと、心の中で思っていました。“いじめ”はだれも得をしない、悲しい思いしか残らないということ、一人でも多く子どもたちが感じ取ってほしいと切に願います。そして、身近な家族や友だち関係を今一度見つめ直し、子どもたちが優しい心を持ち、子どもたちにとってよりよい環境をつくっていかれたらよいと思いました。

講演を聞いて、いつも上の子とけんかをして手が出てしまったことを思い出し、“いじめ”や暴力は本当にダメなことだとドキッとしたそうです。でも、なんでそんなことをしてしまうのかわからなかったけど、いじめている方も嫌な思いをしていたりすることを知り、自分もそうかもと思ったもののやっぱりどうしたらよいのか答えが出なかったと話していました。子どもの中でいろいろと考えるきっかけになったようです。ありがとうございました。

1年生の子どもたちにもわかりやすい講演で、“いじめ”はしてはいけないことと、いじめられたら親や先生に相談することなどを理解できたようです。家庭でも子どもとの会話を大切に、子どもの様子を見守っていきたいと感じました。

【「いじめについて考える」授業を参観して】

いろいろな種類の“いじめ”を見せることで、“いじめ”の行動を認識しやすかったと思いました。“いじめ”のケースごとに対応を考えることは難しいなあと思いますが、子どもたちはそれぞれよく考えていて、すばらしいと思いました。“いじめ”と遊びが違うことを気付いてくれるとよいです。

親も参加型の授業で、答えられないものを一緒に答えたり考えたりする感じだったのですが、子どもが思いのほか、自分で答えることができていると驚きました。家ではなかなか見ることができない姿だったので、とてもよかったです。

体を傷つける“いじめ”や口頭での“いじめ”について、ていねいに子どもたちが話し合っていました。特に“いじめ”だと気付かない事例については、子どもたちは初め少しきよんとした空気でしたが、先生の説明を聞いて納得していました。当の子どもたちも相手を傷つける行為だと気付かなかったかもしれません。よい話し合いだったと思いました。私の子ども時代は“いじめ”は避けて通れないものだと思っていましたが、低学年からこのように教育をして、“いじめ”がないことが当たり前になれば、学校がますます良い環境になると感じました。

学校側が主体として、“いじめ”について考える機会を設けていらっしゃることは、保護者としてもとても安心ができます。子どもの頃は悪意なく傷つける言葉をつかってしまったり、周りの子がみんなしているからといった理由でなんとなくまねをしていたり、意外と子どもたちの中にはそういうことがあるのではないかと思います。まず、“いじめ”とはどういったもので、何をしたらいけないのか、子どもたちが自分で考えて“いじめ”が起きる前に、話をすることがとても大切だと感じました。

休み時間も含めて、学校での様子がよくわかってよかったです。休み時間に友だちと楽しく遊んでいる姿を見て嬉しかったです。その後の道徳の授業は、先生の教え方に頭が下がりました。授業のほとんどの時間は子どもたちが思い思い発言していました。たとえ子どもたちの思いが大人から見ると少しおかしい場合でも、先生はそれを黒板に書いて受け止め、みんなの意見を聞きながらよりよい考え方へと導いていました。子どもたちが道徳の授業を通して“いじめ”について考え、それに対して自分の思いが話せる姿はすばらしかったです。

子どもたち一人一人が自分なりに考えて、“いじめ”のない生活をしたいと思っていることが感じられました。伝言ゲームは、内容が変わってしまうことが多く、言い方だけでも“いじめ”に発展することもあります。うわさ話を鵜呑みにせず、しっかり内容を把握できるように努めたいです。

カードを使ったグループワークがとても面白いと思いました。他人の様子から何が困っているかを推測する時、それを正しく理解してどのようにしたら助けてあげることができるか、どのようにだれかに相談すればよいのかは、けっこう子どもたちからすると難しいことかもしれないと気付きました。困り事がある、困っていそうな子がいるのはわかるけれど、どうしたらよいのかがわからない、けれどなんとかしてあげたいという気持ちは、大人でも確かにあります。今回の授業でのアクティビティを通して、「考える、想像する、みんなで話し合う、相談する人や方法を知る」というのは、とても大きな意味があると思いました。

何かこまったことや嫌な気持ちになることがあった時には、一人で悩まずにだれかに相談しようとして子どもたちも授業で話していました。このことを忘れないように生活してほしいと思います。成長していく中で自分の辛い気持ちを隠したまま過ごしていかないように、相談しやすい環境をつくっておきたいです。

「自分だったらAさんになんて言う？」という先生の投げかけに対して、Bさんがかわいそうという意見にとどまらず、「私は変な子だとは思わないけど。」や「うわさは信じない方がいいよ。」など、自分の思いをしっかりAさんに伝える考えがもてて、さすが4年生だなと感じました。「私はそうは思わないけど。」という毅然とした態度をとるのはなかなか難しいけれど、一番Aさんの心に響くのだろうと思いました。どの子も自分のことに置き換えて考えている姿に感心しました。いろいろと考えさせられる授業をしていただき、ありがとうございました。

4年生になると、“いじめ”はより現実的な問題になるため、考える機会があることはとてもよいと思いました。だれもが被害者にも加害者にもなり得ることを知っていれば、自分自身に起こった時にだれかに相談することは恥ずかしいことではないと理解できると思います。皆と深く仲よくなる必要はないけれど、SST（ソーシャル スキル トレーニング）を通して、どんな人ともほどよい距離感で関わることや自分自身を大切にすることを学んでほしいです。

6年生ということで授業態度も落ち着いていて、先生や友だちの話の聞き方もとてもよかったです。班の中で意見を出し合い、積極的に授業に参加していると感じました。「どうしたらいじめはなくなるのか。」という問いに対して、多くの子どもたちが自分の意見をしっかりと話している姿に感心しました。

